**おおさかＱネット「大阪湾の環境の保全・再生・創出」に関するアンケート**

**分析結果概要**

■実施期間　　平成29年9月7日（木）～9月11日（月）

■サンプル数　　国勢調査結果（平成27年）に基づく性・年代・居住地（4地域）の割合で

割り付けた18歳以上の大阪府民1,000サンプル



大阪市域　　：大阪市

北部大阪地域：豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町

東部大阪地域：守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市

南部大阪地域：堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村

**1.調査目的**

大阪府では、平成28年10月に「瀬戸内海の環境の保全に関する大阪府計画」の内容を変更し、「多様な生物を育む場の確保」、「健全な物質循環による良好な水環境の保全」、「都市活動や暮らしに潤いと安心を与える、大阪の都市としての魅力向上」といった多面的価値・機能が最大限に発揮された「豊かな大阪湾」の実現を目指して取組みを進めていくこととしている。

本調査では、府民の大阪湾の環境に対する意識や大阪湾の利用状況、大阪湾の環境保全等に対するニーズ等を明らかにし、当該計画に基づく新たな取組みの企画立案等を行うための参考とする。

**2.主な調査（検証）項目**

①　大阪湾及び大阪湾沿岸（以下「大阪湾」という。）の来訪経験のある人の方が、大阪

　　湾に対して愛着や魅力を感じ、将来の魅力向上に期待している。

　　　また、来訪先として、最も頻度が高い場所が、湾奥部（岸和田市以北）の人と湾南部（貝塚市以南）の人とでは、大阪湾に対する愛着や魅力、将来の魅力向上への期待に差がある。

　②　大阪湾に対するイメージ「水がきれい」・「景観がよい」に対して、若い世代と高齢の世代では、子どもの頃や現在の意識に差がある。

　③　大阪湾の水質改善等のボランティア活動への参加経験や関心のある人の方が、大阪湾に来訪経験があり、大阪湾に対して愛着や魅力を感じ、将来の魅力向上に期待している。

**3.主な調査（検証）結果**

　①　大阪湾の来訪経験（過去３年間）と大阪湾に対する愛着等や将来への期待との関係性については、大阪湾を訪れたことがある人の方が、大阪湾に愛着や魅力を感じる割合が高かった。また、将来に対する期待についても、大阪湾を訪れたことがある人の方が、大阪湾の魅力の向上に期待する割合が高かった。

　　　大阪湾の来訪先が湾奥部と湾南部の違いについては、大阪湾に愛着や魅力を感じる割合、及び将来の大阪湾の魅力向上に期待する割合のいずれも差は見られなかった。

 また、来訪頻度による違いについても検証したところ、大阪湾に愛着や魅力を感じる割合は、訪問回数に比例して高くなったが、将来の大阪湾の魅力向上に期待については、訪問回数で差は見られなかった。

　②　子どもの頃のイメージ「水がきれい」「景観が良い」に対して肯定的に思っている人【肯定層】は、【若年層】及び【中間層】に比べ、60歳以上の【高齢層】の割合が高く、現在のイメージも同様に【高齢層】が高かった。

　　　また、子どもの頃と現在の意識の変化（子どもの頃に【否定層】であった人が、現在【肯定層】に変わったか、【否定層】のままであるかを比較）を見たところ、年齢層別では、【高齢層】の方が【若年層】及び【中間層】に比べ、イメージ「水がきれい」「景観が良い」のいずれにおいても、子どもの頃に【否定層】であったが現在【肯定層】に変わった割合が高かった。

　　　同様に、子どもの頃と現在の意識の変化を大阪湾の来訪経験でみると、子どもの頃に【否定層】であったが現在【肯定層】に変わった割合は、大阪湾を訪れたことのある人の方が、イメージ「景観が良い」では高かった。なお、イメージ「水がきれい」では有意差は見られなかった。

　③　ボランティア活動に参加した経験や関心のある人の方が、大阪湾に愛着や魅力を感じる割合や、将来の大阪湾の魅力向上に期待する割合がいずれも高いことが分かった。

（注）

1.　「おおさかＱネット」の回答者は、民間調査会社に登録されたインターネットモニターであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。そのため、アンケート調査の「単純集計（参考）」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。ただし、性別、年齢、地域に関しては、直近の国勢調査の大阪府の構成比に合わせている。

2.　割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。

3.　図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

4.　図表中の上段の数値は人数（n）、下段の数値は割合（％）を示す。

5.　図表下にカイ2乗検定の値（p値）を記載しているものは、信頼度5％水準で統計上の有意差がみられたもの。原則は自由度１での検定となるが、自由度２以上でも有意差が見られたものについては、ｐ値と合わせて自由度を記載している。

6.　複数回答のクロス集計については、カイ2乗検定を行っていない。

**1.大阪湾の来訪経験等と愛着や将来の期待との関係性**

　大阪湾を訪れたことのある人、またその来訪先や来訪頻度と、大阪湾への愛着や魅力との関係性について、また、将来の大阪湾の魅力向上への期待との関係性について、あわせて調査した。

　大阪湾に愛着や魅力を感じるか、という質問に対して、「感じる」、「少し感じる」と回答した人を【愛着・魅力あり】とし、「あまり感じない」、「全く感じない」と回答した人を【愛着・魅力なし】とする。なお、「わからない／どちらとも言えない」と回答した人は除いた。

　また、将来、大阪湾の魅力が向上することに期待するか、という質問に対して、「大いに期待する」、「やや期待する」と回答した人を【将来期待あり】とし、「あまり期待しない」、「全く期待しない」と回答した人を【将来期待なし】とする。なお、「わからない／どちらとも言えない」と回答した人は除いた。

* 1. **大阪湾の来訪経験と愛着や将来の期待との関係性**

**（性別・年代別との関係性）**

　まず、過去３年の間で大阪湾を訪れたことのある人とない人について、性別、性・年代別で比較したところ、性別では、男性の方が女性に比べ、来訪経験のある人の割合が高かった。また、性・年代別では、女性のうち「60歳代以上」の人の割合が最も低く、最も割合が高い「18歳から20歳代」の人との間で統計上の差がみられた。なお、男性については、「18歳から20歳代」の割合が最も低く、「30歳代」が最も高かったが、統計上の有意差は見られなかった。（図表 1-1-1）

【図表 1-1-1】





**（愛着や将来の期待との関係性）**

◆大阪湾の愛着や魅力について、過去３年の間で大阪湾を訪れたことのある人は、訪れたことのない人に比べ、愛着や魅力を感じると回答した人の割合が高かった。（図表 1-1-2）

◆また、将来の大阪湾の魅力向上について、過去３年の間で大阪湾を訪れたことのある人は、訪れたことのない人に比べ、魅力が向上することに期待すると回答した人の割合も高かった。（図表 1-1-3）

　なお、大阪湾の魅力が向上することに期待すると回答した人の割合は、大阪湾を訪れたことのある人で85.4％、訪れたことがない人で74.7％といずれも高い割合で、統計上の有意差はあるものの、魅力向上への期待が総じて高い傾向が見られた。

【図表 1-1-2】





【図表 1-1-3】





**（参考）**

　調査の結果、将来の大阪湾の魅力向上に期待する人の割合が81.2％と高かったことから、今後大阪湾にこれまで以上に訪れたいと感じるために、どのようなことを高めることが必要だと思うか、上位３つまで選んでもらった結果を参考に記載する。

◆必要と思う項目（上位３つの合計）については、「水がきれい(60.3％)」が最も多く、次いで「海を眺めながら憩える場所がある(48.4%)」、「景観がよい(47.5％)」という結果であった。（図表 1-1-4）

【図表 1-1-4】



**1-2 大阪湾の来訪先と愛着や将来の期待との関係性**

大阪湾では、湾奥部（概ね岸和田市以北）と湾南部（概ね貝塚市以南）で、海域の水質の状況や沿岸の利用状況等が大きく異なるため、来訪場所によって、愛着や将来の期待に違いがあるか調査した。

　過去３年の間で、大阪湾を訪れた人に対し、最も訪れた場所（市区町単位）はどこか、という質問に対して、「岸和田市以北の市区町」を回答した人を【湾奥部】とし、「貝塚市以南の市町」を回答した人を【湾南部】とする。

◆過去３年の間で大阪湾を訪れた最も頻度が高い場所について、【湾奥部】と【湾南部】とで比べたところ、大阪湾に愛着や魅力を感じると回答した人の割合に差は見られなかった。（図表 1-2-1）

◆また、将来の大阪湾の魅力向上について、【湾奥部】と【湾南部】で比べたところ、将来の大阪湾の魅力が向上することに期待すると回答した人の割合も差は見られなかった。（図表 1-2-2）

　今回の調査の結果からは、来訪先（【湾奥部】と【湾南部】）の違いで、大阪湾への愛着や将来への期待に差は見られなかった。

【図表 1-2-1】





【図表 1-2-2】





**1-3 大阪湾の来訪頻度と愛着や将来の期待との関係性**

過去３年の間で、大阪湾を訪れた人に対し、最も訪れた場所の来訪頻度についての質問に対して、「週に数回以上」、「週に１回～月に数回程度」と回答した人を【月数回以上】とし、「月に1回程度」、「年に数回程度」と回答した人を【年数回以上】、「年に１回程度」、「上述より少ない」と回答した人を【年１回以下】とする。

◆大阪湾に愛着や魅力を感じると回答した人は、大阪湾を訪れた回数が多くなるにつれて割合が高くなった。（図表 1-3-1）

◆また、将来の大阪湾の魅力が向上することに期待すると回答した人についても、大阪湾を訪れた回数が多くなるにつれて割合は高くなったが、いずれも80％以上と高く、統計上の有意差は見られなかった。（図表 1-3-2）

【図表 1-3-1】





【図表 1-3-2】





**2. 子どもの頃と現在との水質等に関する意識の関係性**

　大阪湾に対するイメージ「1水がきれい」や「2景観がよい」という項目について、子どもの頃と現在との意識に各年齢層等で差があるか調査した。

　子どもの頃と現在との大阪湾に対する各項目のイメージに対する質問について、「そう思う」、「どちらかというとそう思う」と回答した人を【肯定層】とし、「あまり思わない」、「全く思わない」と回答した人を【否定層】とする。なお、「わからない」と回答した人は除いた。

　また、各年齢層について、18歳以上40歳未満を【若年層】、40歳以上60歳未満を【中間層】、60歳以上を【高齢層】とする。

**2-1. 子どもの頃と現在、及び子どもの頃から現在の意識の変化の関係性**

　まず、子どもの頃と現在のそれぞれにおいて、大阪湾に対するイメージが年齢層によって差があるか調査した。また、子どもの頃の意識と現在との意識の変化について、年齢層で差があるか調査した。

**大阪湾に対するイメージ「1水がきれい」について**

◆大阪湾のイメージ「1水がきれい」について、【高齢層】の方が、【若年層】及び【中間層】に比べ、子どもの頃に【肯定層】であった人の割合が高かった。（図表 2-1-1）

◆現在のイメージ「1水がきれい」についても、【高齢層】の方が、【若年層】及び【中間層】に比べ、【肯定層】である人の割合が高かった。（図表 2-1-2）

◆子どもの頃と現在の意識の変化では、【高齢層】の方が【若年層】及び【中間層】に比べ、子どもの頃に【否定層】であったが、現在は【肯定層】に変わった割合が高かった。（図表 2-1-3）

【図表 2-1-1】





【図表 2-1-2】





【図表 2-1-3】







**大阪湾に対するイメージ「2景観がよい」について**

◆大阪湾のイメージ「2景観がよい」について、【高齢層】の方が、【若年層】及び【中間層】に比べ、子どもの頃に【肯定層】であった人の割合が高かった。（図表 2-1-4）

◆現在のイメージ「2景観がよい」についても、【高齢層】の方が、【若年層】及び【中間層】に比べ、【肯定層】である人の割合が高かった。（図表 2-1-5）

◆子どもの頃と現在の意識の変化では、【高齢層】の方が【若年層】及び【中間層】に比べ、子どもの頃に【否定層】であったが、現在は【肯定層】に変わった割合が高かった。（図表 2-1-6）

【図表 2-1-4】





【図表 2-1-5】





【図表 2-1-6】







**2-2. 子どもの頃から現在の意識の変化と来訪経験との関係性**

次に、子どもの頃の意識と現在との意識の変化について、来訪経験の有無で差があるか調査した。

**大阪湾に対するイメージ「1水がきれい」**

◆過去３年の間で大阪湾を訪れたことのある人の方が、訪れたことのない人に比べ、子どもの頃に【否定層】であったが、現在は【肯定層】に変わった割合は、やや高い傾向にあるが統計上の有意差は見られなかった。（図表 2-2-1）

【図表 2-2-1】







**大阪湾に対するイメージ「2景観がよい」**

◆大阪湾を訪れたことのある人の方が、訪れたことのない人に比べ、子どもの頃に【否定層】であったが、現在は【肯定層】に変わった割合が高かった。（図表 2-2-2）

【図表 2-2-2】







**【参考】（その他の項目等）**

　子どもの頃と現在の大阪湾のイメージについては、「1水がきれい」「2景観が良い」のほか次の８項目、計10項目について聞いたところ、「5生き物が多く生息する」を除く他の7項目では、「2景観がよい」と同様、大阪湾を訪れたことのある人の方が、訪れたことのない人に比べて、子どもの頃に【否定層】であったが、現在は【肯定層】に変わった割合が高い傾向であった。なお、「5生き物が多く生息する」は、「１水がきれい」と同様統計上の有意差は見られなかった。



**（現在のイメージとの関係）**

また、“現在の大阪湾のイメージ”と、来訪経験の有無、来訪先が湾奥部・湾南部とで、差があるかについても参考に調査した。

◆現在の大阪湾のイメージについては、「1水がきれい」「2景観が良い」など10項目について聞いたところ、「5生き物が多く生息する」を除くすべての項目で、大阪湾を訪れたことのある人の方が、訪れたことのない人に比べて、【肯定層】の割合が高かった。

また、来訪先では、10項目のうち、「7 おいしい魚が獲れる」では、来訪先が【湾南部】の人の方が、【湾奥部】である人に比べ、【肯定層】の割合が高かったが、他の項目について有意差は見られなかった。（図表 2-3-1～図表 2-3-10）

【図表 2-3-1】



【図表 2-3-2】



【図表 2-3-3】



【図表 2-3-4】



【図表 2-3-5】



【図表 2-3-6】



【図表 2-3-7】



【図表 2-3-8】



【図表 2-3-9】



【図表 2-3-10】

 

**3.ボランティア参加経験・関心と来訪経験や愛着等、将来の期待との関係性**

　大阪湾の水質改善等のためのボランティア活動への参加経験や関心がある人と、大阪湾への来訪経験や愛着・魅力との関係性について、また、将来の大阪湾の魅力向上への期待との関係性について、あわせて調査した。

　大阪湾の水質改善等のためのボランティア活動に対する質問に対して、「これまで参加したことがある」、「参加したことはないが、今後参加したい」、「参加したことはないが、関心がある」と回答した人を【参加・関心あり】とし、「参加したこともなく関心もない」と回答した人を【参加・関心なし】とする。なお、「わからない／どちらとも言えない」と回答した人は除いた。（図表 3-1）

**（参考）**

【図表 3-1】





◆ボランティアの参加経験や関心のある人は、そうでない人に比べ、過去３年の間で大阪湾を訪れたことがあると回答した人の割合が高かった。（図表 3-2）

◆ボランティアの参加経験や関心のある人は、そうでない人に比べ、大阪湾に愛着や魅力を感じると回答した人の割合が高かった。（図表 3-3）

◆また、ボランティアの参加経験や関心のある人は、そうでない人に比べ、将来、大阪湾の魅力が向上することに期待すると回答した人の割合も高かった。（図表 3-4）

　これらの結果から、ボランティアの参加経験や関心のある人は、大阪湾に愛着や魅力を感じており、大阪湾の将来の魅力向上に期待していることが分かった。

【図表3-2】





【図表3-3】





【図表 3-4】





**（参考）**

　調査の結果、ボランティアへの参加経験や関心のある人と大阪湾への愛着や魅力などに関係性が見られたことから、ボランティアの参加経験や関心のある人に、どのような傾向が見られるかについて、参考に記載する。

◆年代別では、30歳代がボランティアへの参加経験のある人の割合が他の年代と比べて高く、参加したことはないが関心がある人の割合は、70歳代以上で高くなっている。（図表 3-5）

◆また、大阪湾を訪れた回数が多いほど、ボランティアに「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後参加したい」など、ボランティア参加に対する積極的な割合が高い傾向が見られた。（図表 3-6）

【図表 3-5】





【図表 3-6】



